

大草谷津田いきものの里 自然観察会

カタツムリを探そう

松本美千代（千葉市）

日 時：2010年7月4日（日）10：30～12：00 天気：曇りのち晴れ

参加者：10名（大人6名、子ども4名）

担当指導員：山岸文子・松本美千代

3日前の下見では、大きなミスジマイマイ3匹しかみつけられなかった。それでもコクロアナバチがツユムシを狩って運んでいるところや、一見ハチのような蛾ヒメアトスカシバ♀が幼虫（茎に虫こぶをつくる）の食草であるヘクソカズラに飛んで来たり、オオホシオナガバチ（キバチの幼虫に寄生する有益な天敵）が杉の幹に産卵管を刺そうとしているのを観察できた。

当日は朝まで雨が降り、カタツムリが活動するには好条件となった。

- 入口広場で「大草いきものの里」の概要と注意事項を説明する。
- 「カタツムリ」は貝の仲間であること。海の貝（ヤツシロガイ他）を触ってもらい、堅さ、厚さ、重さの違いをみてもらう。陸の貝のカタツムリは木登りをする。それには殻が薄く軽い方が便利ということを実感してもらう。
- カタツムリの体の構造を図で説明する。
- 好物は何か実験をする。3日間餌を与えたかったミスジマイマイを中心置き、メロンの花（農作物を食害する）、アジサイの葉（よく絵に描かれる）、煮干し（ナメクジの好物）、シイタケ（絶対に食べないという意見が多かった）を置く。帰ってから何を食べているか見ることにする。
- 入口を入ってすぐのところ、腐った丸太の上のキセルガイ、これもカタツムリの仲間であると説明する。子供が「ここにもいた」と葉の上にいる小さいカタツムリを見つける。よく見るとカタツムリの上にクロコウガイビルがいた。本にカタツムリの天敵のひとつにコウガイビルとあったが、実際に見られたので担当者もびっくりする。地面近くの朽木上と2箇所で同じ状態が見られた。
- 杉林脇で小さなヒダリマキマイマイ 休耕田近くの林縁の古木にたくさんの大なミスジマイマイをみつけられた。二種類とも関東に生息する種類と説明する。（カタツムリは移動力が小さいので、地方ごとに種類が異なる）
- クワの葉の上でWのように折りたたんで糞をしているミスジが見られた。肛門は衿のそばにあることを確認する。
- 入口広場に戻り実験結果を見る。シイタケに食痕、参加者は葉や花を食べるという先入観があつたらしく、意外だったとのこと。枯枝、枯木にカタツムリが多いのは、自然の中ではキノコ、苔類、藻類などを食べるからと説明する。

当日の朝、カタツムリやナメクジがみられたところの木や朽木にしるしをつけておいたのだが、それ以上にたくさんのカタツムリを見つけることができた。

大勢の目でみられたので、その他いろいろ発見があった。

- 地面の上を歩くザトウムシにオオヒラタシデムシの幼虫
(大きなワラジムシの様で？ 小さな子どもに 人気があった)

- ・アズマネザサに静止している黄色のタケカレハの幼虫
- ・緑や褐色のナナフシモドキ
- ・置物のように行きも帰りも動かさずに葉っぱの上にいた小さなシュレーグルアオガエル
- ・オオシオカラ トンボのメスが湿地に産卵している上をオスが飛んでいるところ(脱皮殻を見ると、これがああなつちやうのと感心する子供)
- ・翅をひろげて止まるムラサキシジミ(大人が大喜び)
- ・地面を歩いていたクリーム色のトビナナフシの小さな幼虫
- ・脱皮したばかりのリンゴドクガの幼虫(同じ小さい黄色い毛の抜け殻あり)
- ・茶色の背に白い点々のあるシラホシカミキリ
- ・ハグロトンボ
- ・ノシメトンボ
- ・ツマグロオオヨコバイ
- ・ヒカゲチョウ…など。

残念ながら皆が帰ってからだが、広場入口のエノキの上をタマムシが飛んでいるのが見られた。でんでんむしと親しまれているカタツムリ=身近なところで探そうとしてもなかなか見つけられない。同じ仲間のナメクジは沢山見つかるのだが。

参加者の感想に「毎回参加しているがくるたびに新発見がある。」とコメントがあった。
季節ごと、時間ごといろいろな生き物が見られる「大草」です。